

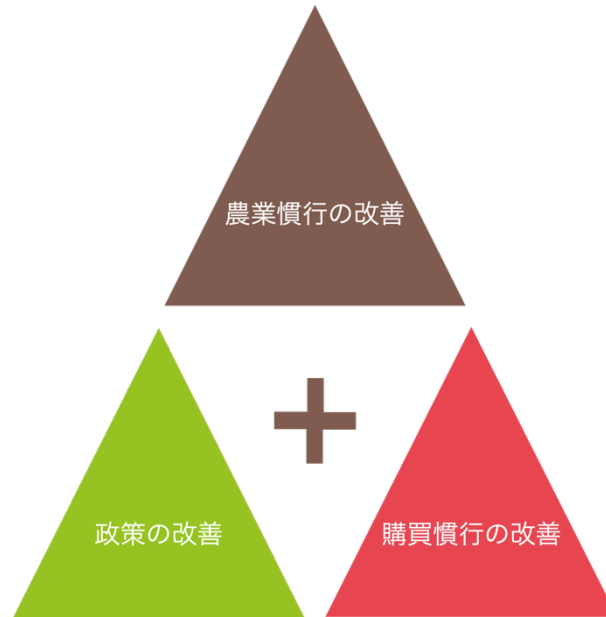
cocoa barometer

エグゼクティブサマリー



2022

2022 年版カカオバロメーター エグゼクティブサマリー



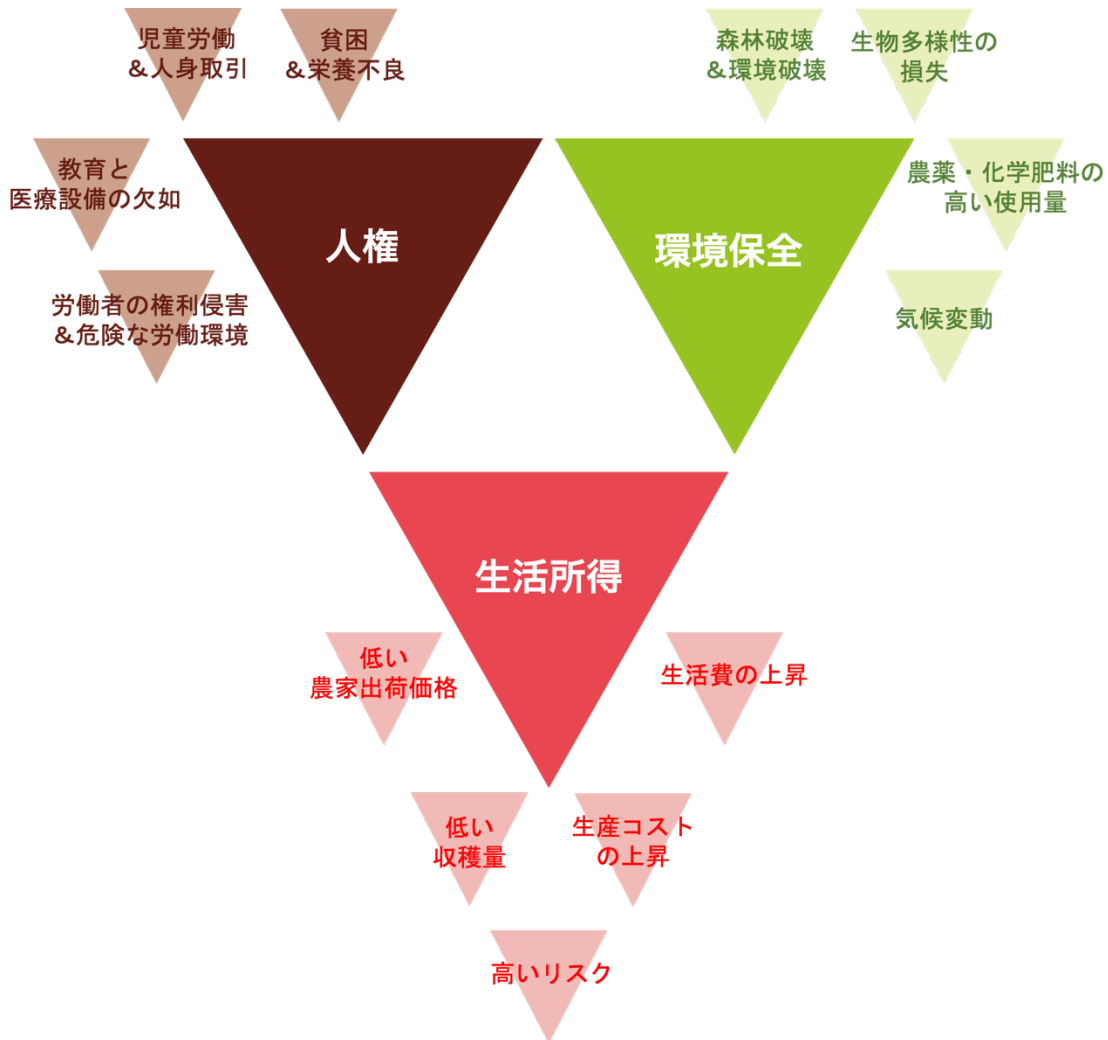
はじめに

20 年間にわたるカカオセクターの持続可能性についての議論の末、“なぜ私たちはこれらの問題をいまだに解決していないのか？”という疑問が湧く。確かに、カカオバロメーターでは、まるで 2 年ごとに同じ問題について書いているかのように感じることもある。実際には、長年にわたってさらなる課題が追加されている。

環境保護をめぐるっては、相互に関連するいくつかの課題が浮き彫りになっている。森林破壊と生物多様性の喪失はカカオの生産が引き金であり、気候変動はカカオの生産に影響を与え、またカカオが引き起こす森林破壊によって悪化している。農薬の使用は環境破壊を引き起こすと同時に、農薬を使用する側にとっても危害をもたらす。

西アフリカのカカオ生産地では児童労働が引き続き課題となっており、子どもたちは年齢に適していない危険で有害な労働に従事している。ジェンダーの不平等は、権利の主体であり変革の担い手でもある女性にとって障壁を生む。

カカオにまつわる問題を木で表した場合、環境保護と人権は 2 つの太い枝となっており、その根幹にはどちらも農家の貧困がある。農家の貧困は現在、生活費の危機的上昇によって悪化している。



ここ数年、生活所得という概念はカカオセクターの重要な目標となっているが、これまでのところ企業の中核的な事業活動に変化はみられない。コートジボワールとガーナの政府間協力による市場価格の引き上げは重要なステップだが、今のところカカオの農家出荷価格は十分な報酬水準とはいえない。

持続可能性に関する意思決定は、カカオ生産者の現実からかけ離れていることがあまりにも多い。権力者たちによって意思決定がなされ、それらの内容は権力者の利益に沿っている。そのため、今のところ、数十年にわたる農家出荷価格の引き上げの要求には応えていない。その代わりに、収穫量の増加や生産活動の多角化など、農家がやり方を変えることに焦点を当てたアプローチが追求されてきた。

本報告書の調査によると、農家の貧困を救済するためにこれまで好まれてきたアプローチでは、所得格差を埋めることはできないことが示されている。収穫量の増加は必ずしも実質的な所得の増加には繋がらず、農家のリスクを増やすことになる。農家出荷価格の大幅な上昇なしには、持続可能なカカオセクターの実現は夢物語となる。

カカオ農家の世帯が生計を立て、自然が守られ繁栄し、すべての権利（子どもや女性、その他の社会的に脆弱な立場にある人々の権利を含む）が保護される、真の意味での持続可能なカカオになるためには、真の変革が必要である。真の変革とは、根本的な変化である。

その意味で、カカオ消費国におけるサプライチェーン法の整備は非常に前向きな進展だが、各国が同程度の野心を持てるかと、サプライチェーン法がどのように実施されるかによって、望ましい結果が得られるかどうかが決まるだろう。

カカオセクターに必要な変革は、単により良い農法によってもたらされるのではなく、その変革を可能にする制度環境に目を向けることが重要なアプローチとなる。政策や購買慣行において、根本的な変更と改善が必要である。これらが整ってはじめて農家を繁栄させるためのビジネスが成立する。

生活所得

生活所得の保障はそれ自体が人権であり、またカカオセクターにおいて他の全ての課題を解決するための前提条件である。農家の貧困は、森林破壊や児童労働、ジェンダーの不平等などの問題を引き起こす要因となっている。生活所得は農家にとって人権が尊重された生活を送るための最低水準であり、生活所得の保障はゴールではなく出発点であるべきである。それでも、ほとんどの農家は生活所得を得るにはほど遠い状態にあり、それに向かって前進もしていない。

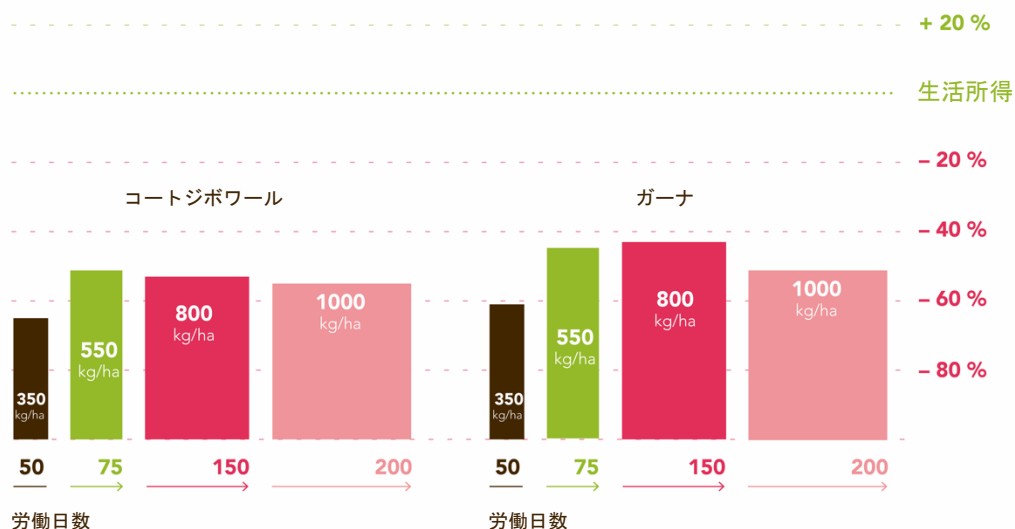
農家の収入向上をめざし現在実施されているアプローチは、いくらよく見てもわずかな影響しか与えていないという重要な証拠がある。それにもかかわらず、ほとんどのカカオやチョコレート企業は従来通りの事業を続けている。多くの企業が記録的な利益を報告しているが、一次産品の農家は貧しいのが当然だという暗黙の前提がある。

ジェンダー

貧困のリスクが高いと特定される家庭の多くは、母子家庭である。この問題に取り組むためには、男性と同じ権利と機会が女性にも必要である。女性は高所得から自動的に恩恵を受けるわけではない。したがって、すべてのプログラムや介入支援は、報酬の平等な分配、リスクの公平な共有が保証されたジェンダー特化型のアプローチでなければならない。

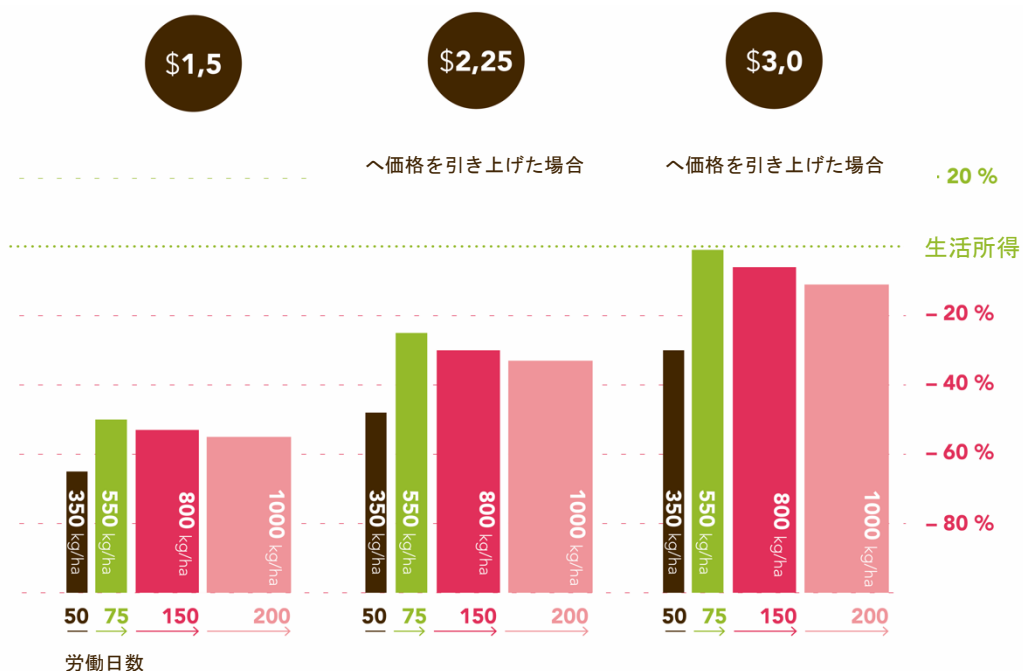
収穫量の増加による純利益への影響 (1.50 ドル/kg で計算)

現行の GPS 測定に基づき、農場面積をコートジボワールは 3 ヘクタール、ガーナは 2 ヘクタールとしている。



収穫量の増加による純利益への影響: コートジボワールの例 (キロ当たりの価格を上げた場合)

現行の GPS 測定に基づき、農場面積をコートジボワールは 3 ヘクタール、ガーナは 2 ヘクタールとしている。



生産性、労働力、農園の規模

生産性の向上は必要だが、実収入を増やすには不十分である。多くの場合、生産性向上に投資するための資源（労働力と資本）にアクセスがない、あるいはそれら資源が入手可能な価格ではない。雇われた労働者や農業投入物のコストがかかるため、単にカカオの栽培量を増やすだけでは、実質的な所得を増やすことは非常に困難である。農園が小さすぎるかもしれないという議論は、データを分析する限りその主張は通らない。農園が大きくなればなるほどより多くの労働力が必要になるが、一方でカカオ農家が利用できる労働力には限りがある。生産性の向上は先行投資となるため、農家にとってリスクが増す。コスト、労働力の確保、リスクの問題も、カカオ以外の収入源への多様化が十分な解決策ではないことを示している（ただし、レジリエンスにとっては重要な戦略である）。

価格

生活所得格差を是正するのであれば、より高い価格を支払うことは避けられない。農家に報酬を与えるための需要と供給が適切に機能していないようである。コートジボワールおよびガーナ政府の所得適正化のための補償金（LID）などの関与は、カカオの出荷価格を上昇させるために必要な最初のステップである。

環境保護

環境への配慮はカカオの持続可能性に関する国際的な議論に比較的最近加わったものだが、開発途上国の地域社会においては長年に亘り認識し、異議を唱えてきた。

森林伐採

コートジボワールとガーナでは 2010 年代後半に一時的に森林破壊のスピードが落ちたものの、再び加速している。さらに、インドネシア、アマゾン川流域、コンゴ盆地の熱帯雨林はカカオ農園による浸食の圧力にさらされている。森林破壊は生物多様性の喪失を引き起こし、気候変動を加速させ、二酸化炭素の吸収を減少させる。森林破壊に立ち向かうための主な手段は、トレーサビリティと規制である。森林破壊に対抗するための方策が人権を侵害しないよう、また小規模農家にも配慮したものであるよう注意する必要がある。

気候変動

気候変動は二番目の主要な環境問題である。それにより、世界におけるカカオの生産に適した地域がすでに変わりつつある。西アフリカの森林伐採の影響も加わり、降雨パターンはすでに

大きく変化している。新品種とアグロフォレストリーは、森林再生と同様に、緩和と適応のために必要不可欠な要素である。

農薬

農薬の使用は、生産性向上のために産業界から強く推進されているが、これまでのところ実収入の増加をほとんど伴っていない。農家は投資した資金を回収できないリスクを抱えている。さらに、特に女性や子どもにとっては農薬の被ばくによる健康被害が大きい。環境へのダメージも深刻である。

アグロフォレストリー（森林農法）

アグロフォレストリーは、持続可能なカカオ生産の在り方にとって重要な要素である。現在、アグロフォレストリーの普及率や樹木の生存率が低く、また共通の定義がないため、多様なアグロフォレストリーシステムの大規模展開が妨げられている。

解決策

多様なアグロフォレストリーシステム、有機農業、総合的病害虫管理（IPM）、森林破壊のホットスポットに関する共通のモニタリングと透明性のあるデータ共有に関するランドスケープアプローチ、また生産国と消費国の双方における規制は、カカオにおける環境問題への取り組みに着手するために必要な一連のアプローチの一部である。カカオセクターの他の課題と同様に、カカオ農家の生活所得を確保することも、森林、野生生物、水、土壌への圧力を軽減するのに大いに役立つ。

人権

カカオセクターにおける人権侵害は児童労働に焦点を当てられることが多いが、カカオ農家が直面する問題は多岐にわたる。ジェンダーの不平等、（乳幼児の）栄養不良、教育へのアクセスの欠如、不十分な医療施設や衛生設備、土地及びカカオの木に関する不安定な保有権や法の支配、小規模自作農家、労働者、借地人が保有する労働者の権利侵害など、リストは長く、決して包括的なものではない。

児童労働

何が児童労働で、何が児童労働でないかを理解することは、この議論における重要な第一歩である。しかし、コートジボワールとガーナのカカオ農園では、150 万人の子どもたちが年齢に

適していない労働、そのほとんどが、最悪の形態の児童労働に分類される危険で有害な労働に従事している。

平均すると、子どもたちが危険な活動に従事することは少なくなり、農園での労働時間も減少している。しかしながら、カカオ生産に携わる世帯数の大幅な増加により、最悪の形態の児童労働に従事する子どもの絶対数は依然として増加している。

児童労働の撤廃、特に教育へのアクセス、意識啓発、法の支配において、国の政府や開発機関が重要な役割を担っている。児童労働に関する目標がグリーンウォッシュや空虚な言葉以上のものになるには、企業も政府も投資と野心を数倍高めなければならない。意欲の向上は、強制力のある規制と結びついたものでなければならない。

コミュニティへの働きかけを通じた予防アプローチは、サプライチェーンをベースとした重要な介入策の一つで、児童労働モニタリング・是正システム（CLMRS）がこれにあたる。この仕組みが適切に機能した場合、CLMRS ではコミュニティにおいて児童労働に関わる子どもの約 60% を特定することができる。コミュニティ開発とサプライチェーンの責任を果たすことの両方が必要で、どちらが大事かということではない。

貧困は、数多くの人権侵害を引き起こす要因の一つであり、カカオ生産国における児童労働の主な原因となっている。カカオ農家の生活所得が保障されなければ、児童労働問題への取り組みは著しく困難となる。

ジェンダー平等

西アフリカでは、多くのカカオ農園を女性が経営しているが、その役割が認識されない、もしくはそれに見合った報酬を与えられないことが頻繁にある。加えて女性は、カカオ農園経営の成功を阻む社会文化的制度によく直面する。カカオの持続可能性プログラムがカカオ生産コミュニティの女性に届くように特に設計されていない限り、彼女らには届かないことが多い。ジェンダーを配慮しない介入支援は、男女間の不平等を拡大させる可能性さえある。

人種差別、代表性、脱植民地化

世界のカカオ貿易の現状、そしてそこに含まれている不正義と不平等は、過去の文脈なしには理解できない。植民地化の歴史を知ることで現在の貿易構造がわかる。現在の西アフリカの換金作物主導の経済は、過去の植民地支配および国際通貨基金（IMF）と世界銀行による過度の介入の両方による直接的な結果といえる。

ヨーロッパと北アメリカは開発途上国に対していわゆる開発援助を行っているが、これは安い労働力や農産物、その他の商品として開発途上国から得た価値に比べると小さく見える。先進国は、以前の植民地の富の大部分を今でも占有している。

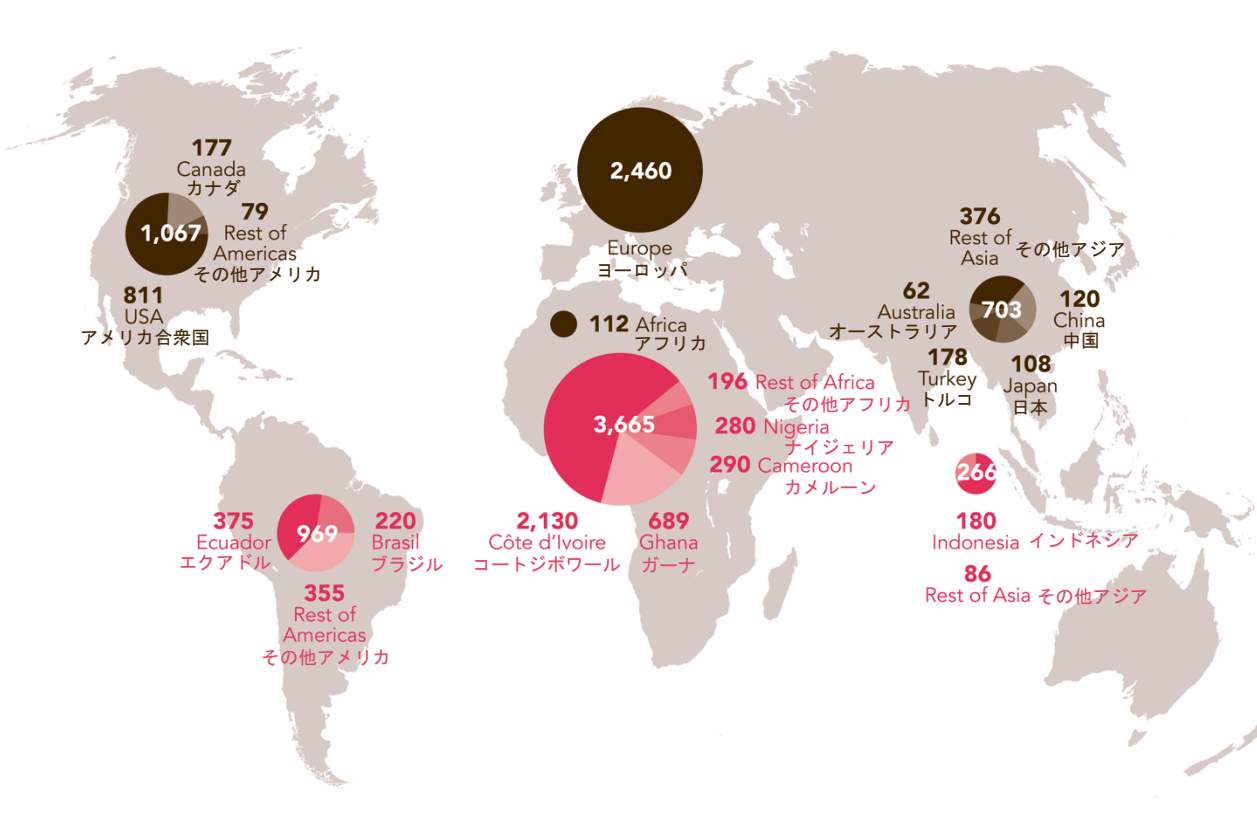
さらに、代表性の問題もある。大抵は、農家がないところで農家についての議論がされる。また、アフリカやラテンアメリカの組織や政府の代表者がいない場で、アフリカやラテンアメリカに関わることが議論されている。

生産 / 輸入

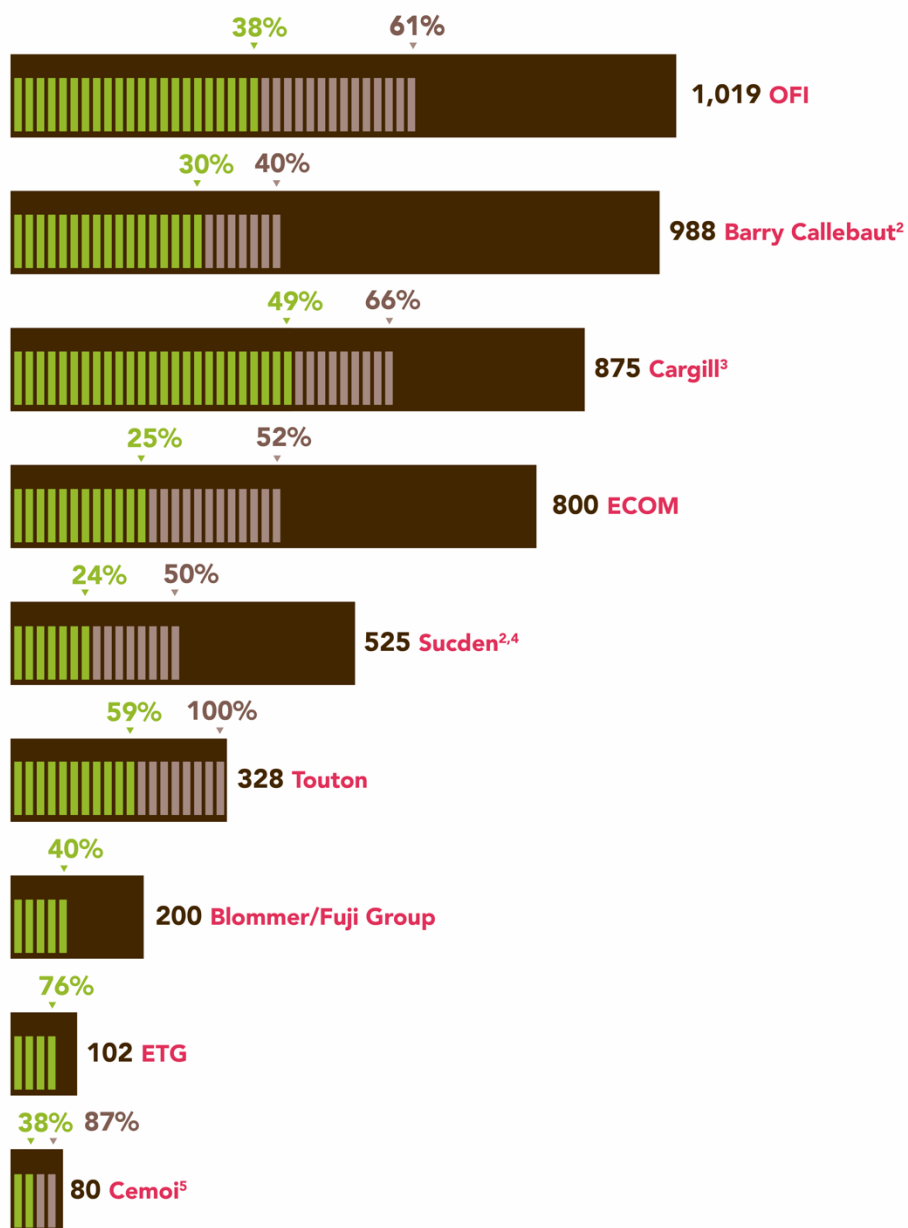
カカオ生産量 (単位: 1,000 トン) 2020/21 年 (予想)

カカオ輸入量 (単位: 1,000 トン) 2020/21 年

出典 : 表 3.9 (ICCO、2022 年)



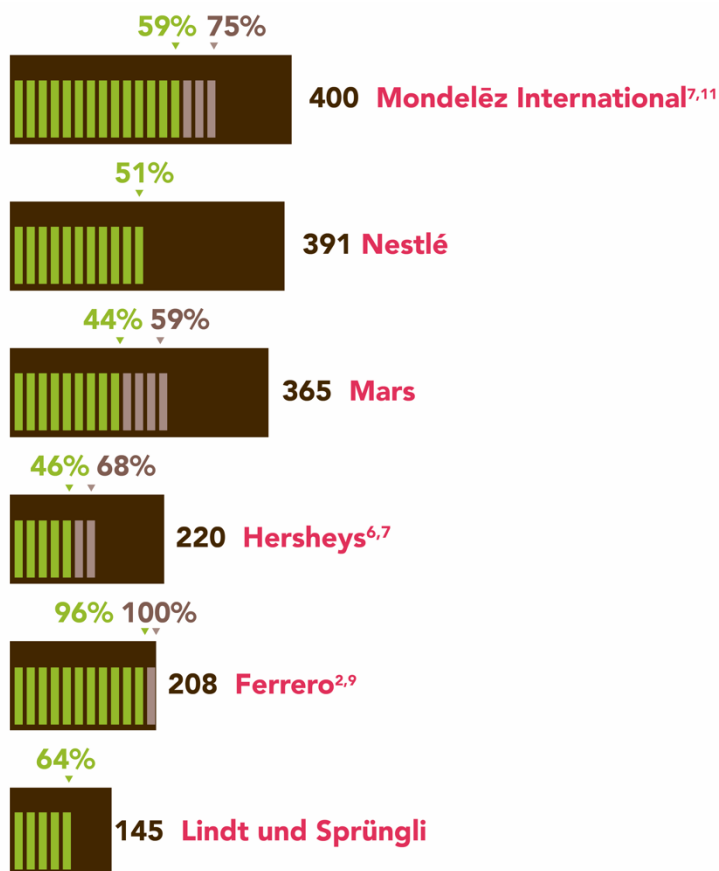
輸入商社および磨砕業者別: トレーサブル・カカオの割合 (2021 年)



農園まで / 生産者協同組合まで / 全使用量 (2021 年)

単位: 千メトリックトン

チョコレートメーカー別: トレーサブル・カカオの割合 (2021年)



農園まで / 生産者協同組合まで / 全使用量 (2021年)

単位: 千メトリックトン

市場の動向

世界は経済的に厳しい状況にあるが、チョコレートとカカオの企業は安定しているだけでなく、繁栄もしている。しかし、農家にとっては、彼らが受け取るカカオの価格には比較的変動がない一方で、生活費と生産コストは高騰しており、絶望的な状況となっている。

企業

カカオの取引業者や磨砕業者が極めて多く市場に集中することで、大手企業には大きな責任が課せられている。その責任の重要な部分は、サプライチェーン全体にわたり十分なトレーサビ

リティを確保することである。トレーサビリティのレベルは企業間で大きく異なるが、どの企業も間接的で、それゆえにトレーサビリティのない調達をかなりの割合で行っている。チョコレートメーカーのトレーサビリティはより高いように見える。なぜなら、彼らはより透明性の高い原料を集中的に調達し、追跡出来ないカカオは他の市場関係者に任せているからである。

供給管理

世界的に見ると、主にコートジボワールとラテンアメリカの成長に牽引されてカカオの生産量は増え続けている。チョコレートとカカオの企業は常に、カカオの価格の主な決定要因として需要と供給を指摘しているが、供給管理政策についての議論はほとんどない。それだけで全てを解決できるわけではないが、供給管理はカカオセクターの持続可能性を高めるための政策手段のツールキットの一部でなければならない。

認証制度

世界のカカオ生産の少なくとも3分の1、恐らく半分以上が認証ラベルや自社のサステナビリティラベルの下で栽培されているにもかかわらず、大きな問題が続いている。チョコレートメーカーと小売業者は最も安い認証ラベルを求める傾向にあり、こうした価格圧力が潜在的に悪影響をもたらす恐れがあることを気にもとめていない。認証制度を使って持続可能性を主張することは誤解を招く。「認証カカオ」と「サステナブルカカオ」という言葉が同義的に使われることが多いが、それはまちがいである。

環境の整備

消費国における法整備

消費国、特にEUとイギリスは、カカオの生産と児童労働や森林破壊との関連を断ち切ろうと、包括的なレベルの、または森林破壊や児童労働など特定のテーマを念頭に置いた、「デュー・デリジェンス」法を導入している。EUでは、森林破壊に関する規制と、より広範なデュー・デリジェンス規制の両方が進展してきている。他の多くの欧州諸国も法的枠組みを構築している最中である。

生産国における法律と制度

生産国では2つの法的課題がある。必要な法律の策定およびその継続的な見直しと、すでに存在する法律の執行という課題である。さらに、制度の強化や実行も必要である。

生産者協同組合

カカオに関するほとんどの取り組みが、すでに生産者協同組合が組織されている生産者にしか届いていない。しかし、ほとんどのカカオ農家は組織化されておらず、介入支援が届いていないのが現状である。生産者による強力な自治組織がこのセクターの基盤になるべきである。生産者協同組合が受けもつことのできる積極的な役割を果たすためには、生産者主導で、専門的に運営され、ジェンダー平等で、そして組合員に対して責任を果たすことが必要である。

熟慮されたインクルージョン

環境を整えるための戦略は、国家レベル、時には地域レベルで協力して策定及び定義されなければならない。

透明性とアカウンタビリティ

透明性とアカウンタビリティは、持続可能性に関する取り組みを信頼でき、かつ効果的なものとするために不可欠である。透明性とアカウンタビリティに向けた最初の重要なステップは、信頼できる国レベルのトレーサビリティシステムを構築することである。これらのシステムは、地理的位置情報を扱うだけでなく、世帯構成、所得、支払われた農産物の出荷価格、児童労働のデータなど、様々な社会経済統計と結びつける必要がある。

カカオにおける生活所得保障への道

生活所得の保障は権利であり、法によって守られるべきものである

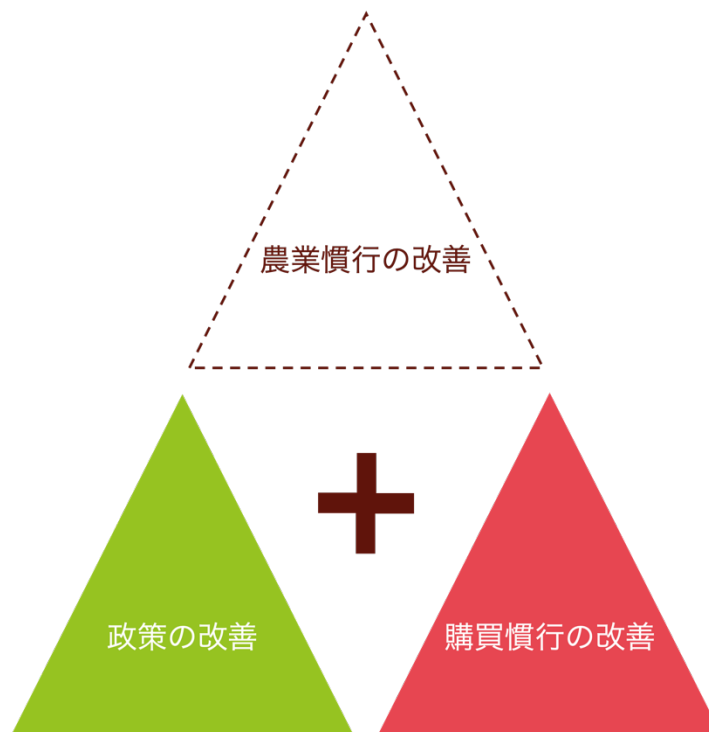
生活所得の保障はカカオセクターの目標として受け入れられているが、個々の企業、政府、またはセクター全体のイニシアチブのいずれにおいても、生活所得の保障に向けた具体的かつ期限を定めたコミットメントがないのが現状である。生活所得の保障は必須のものであり、従って現在草案中のデュー・デリジェンスの規制に記されている。

ビジネスモデルを変える

これらの全てにおいて、業界のビジネスモデルについては、支払い価格をどのように設定するのかを含め、ほとんど話題に上がらない。その結果として、ほとんどの農家はまだ生活所得を稼げておらず、農家が生活所得を確保するためにすべきことを行っている利害関係者グループは現在ひとつもない。

政策と購買慣行から始める

課題解決のためには、公的機関による政策の改善、民間企業による購買慣行の改善、農家による農業慣行の改善の3つの側面で同時に行動を起こすことが必要である。しかし、この3つの側面がすべて同等の地位にあるわけではない。農家による農業慣行の改善は、カカオから十分な報酬を得られる場合にのみ価値ある戦略となる。最初に行動すべき責任は、カカオセクターの企業や政府にある。



主な提言

全てのステークホルダーは

- 問題の大きさと緊急性を反映し、取り組みを大幅に拡大すること。
- 生活所得の保障に対するセクター全体のコミットメントを実践すること。
- 世界規模で森林破壊を抑止すること。
- 農業慣行の改善を強調する前に、購買慣行と政策が実行される環境を大幅に改善すること。
- 持続可能性に関わるすべての協働の取り組みにおいて、農家と市民社会を共同の意思決定者としてみなし、包括的な審議プロセスに参加させること。
- 透明性とアカウントビリティの効果的なメカニズムを開発すること。
- 農産物の単一栽培から多角的な農業への移行を支援すること。
- 農業コミュニティの住民が自ら組織化でき、より大きな発言力を持つことができるように支援すること。
- 全ての持続可能性への取り組みが女性と若者にも届くように配慮された設計にすること。

企業は

- 達成期限を明確にした、購買慣行を含む生活所得向上に関する行動計画を策定すること。
- 生活所得の参考価格を約束すること。
- カカオ生産者と長期安定契約を結ぶこと。
- サプライチェーン全体をカバーする透明性が担保された効果的な児童労働モニタリング・是正システム（CLMRS）を実施すること。
- 農家レベルまでの完全なサプライチェーンのトレーサビリティを実現すること。
- 環境と人権に関する包括的なデュー・デリジェンスの方針を導入すること。
- 所得適正化のための補償金（LID）、国別プレミアム、認証プレミアムを含む持続可能な支払いに関するサプライチェーンの透明性を担保すること。

認証制度は

- 生活所得の保障および生活所得の基準価格での支払いを重要な要件とすること。
- 貿易業者の行動規範を強化・徹底し、カカオ農家へ求めるものと同じくらい多国籍企業にも変革を求めること。

カカオ消費国の政府は

- 人権および環境デュー・デリジェンス規制の主要な要素として生活所得の保障を明記し、達成期限を明確にした行動計画の策定を企業に要求すること。
- 市民社会と農家の代表を支援すること。

- カカオ生産国が組織的能力を向上し、農家の貧困改善に取り組めるよう持続的な財政および技術支援を提供すること。

カカオ生産国の政府は

- 生活所得を含む生産コストを反映するために、カカオの価格を商品市場から切り離し、所得適正化のための補償金（LID）が機能するよう協力して取り組むこと。
- 供給管理システムを導入すること。
- 公的資金がどのように集められ、使用されたかについての透明性とアカウントビリティを大幅に向上させること。
- 森林破壊と児童労働の両方に関する国家的なカカオのモニタリングとトレーサビリティシステムを開発し実施すること。
- 残存する森林の保護を強化すること。
- 食料主権と農村部のインフラに焦点を当てた国の農村・農業開発戦略に、カカオに関する計画を反映させること。
- カカオの販売トン数、全てのプレミアムを含むカカオの販売価格、農家出荷価格と国際市場価格を比較した価格構成を毎年開示すること。

VOICE

Voice of Organisations in Cocoa

